



暑さに負けず、有意義な夏休みに！

先週から猛暑日が続き、ここ数日は35度を超える気温となっておりますが、保護者の皆様は、体調を崩さずに生活できているでしょうか。

さて、早いもので1学期が本日で終了します。保護者の皆様、地域の皆様には、大変お世話になりました。

明日から長い夏休みに入りますが、子供たちが交通事故等災害に遭わないことを願うばかりです。そして、暑さに負けずに有意義な夏休みを過ごし、元気に2学期に登校してほしいものです。

終業式では、次のような話をしました。



（一部抜粋）

さて、いよいよ夏休みが始まります。今年の夏休みは37日間もあります。

夏休みと言っても、水泳検定を含めて11日間は学校のプールが開かれます。夏休みの宿題も出されます。普段と変わらず、早寝早起きをして、学校のプールにもきちんと参加して、宿題もきちんと計画的に行い、少しゆとりがある日には、自主勉強や読書も頑張れる、そんな子供は、夏休み中に心も体もぐーんと成長し、2学期に必ず良い結果につながると思います。

しかし、その反対に、だらだらと毎日を過ごし、学校のプールにも1日も来ない、宿題も全然やらない、やったことは家にこもってテレビを観たり、ゲームをしたりしたことだけ。そんな子供はどうでしょう。とても心配な子供ですね。大事な37日間を無駄にしてしまったこととなります。

そこで、校長先生から、この夏休みに頑張ってもらいたいことを話します。

それは、夏休みのように時間がたくさんある時にしかできないようなことで、友達に「自慢できること」を少なくとも一つ、やってみてください。

これは、「家族と海外旅行に行ってきた」とか「誰々から、こんなことをしてもらったよ」という自慢ではありません。日頃自分ではなかなかできないことを頑張ってやり遂げたよという自慢です。

例えば、○本を30冊読んだよ。

○毎朝早起きして、ラジオ体操をしたり走ったりしたよ。

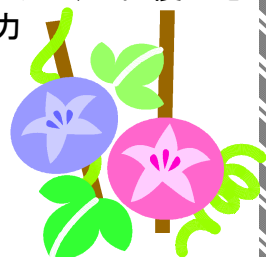
○毎日、家族のためにお手伝いをやり続けたよ。

○夏休み前は25mしか泳げなかったけど、50m泳げるようになったよ。

などです。その他、自由研究みたいな形で、自慢できることをやり遂げる人も考えられますね。37日間という、長い夏休みにしかできないことを見つけて、「自慢できること」にチャレンジしてみてください。頑張ったことは、自分の力となって身に付くと思います。

では、長い夏休みを元気に過ごしてくださいね。そのためにも、絶対に事故に遭わないということを約束してください。

8月27日2学期始業式のこの時間に、元気いっぱいの挨拶で会いましょう。



安全確認、一斉下校の実施！



17日（月）の5校時終了後に、「児童の下校時の安全確保や下校の様子把握、交通安全指導、通学路の点検等」を目的として、今年度初めての一斉下校を行いました。一斉下校班は、神明小学校区内（児童クラブ班を含め）16のグループに分かれ、多方面に帰ります。

まずは、6年生の班長を先頭に、方面ごとに1年→2年→3年→4年→5年→6年と中央玄関前に並び、各方面ごとの担当教諭と顔合わせ。その後、安全主任の新井教諭に安全な歩き方等の指導を受けま

した。この日は、とても暑い日だったので、中央玄関前の日陰に集まり、話を聞きました。そして、担当教諭と一緒に1列に並んで学校を出発しました。

各方面の担当教諭は、児童を家庭近く送到了後、各地区の通学路の危険箇所を点検しながら学校に戻りました。今後、通学路の危険箇所をまとめ、市教育委員会に報告するとともに、地域と連携しながら児童の安全確保、児童への指導に努めていきたいと思ひます。これからも、登下校中に事故のないことを願っています。



3年織物体験事業 7/18（水）



「桐生を好きな子供」を
育てる事業



＜桐生織りの歴史を学ぶ＞



＜各学級ごとに織機で手織の体験＞



この事業は、桐生市の児童生徒が、本市の伝統産業である絹織物について学び、「桐生を好きな子供」を育み、伝統文化の継承につなげるための桐生市教育委員会主催のもので

す。そこで、この度桐生織伝統工芸士会の佐藤好雄さん、高橋康郎さん、香山行信さんと、織物協同組合の事務局後閑克美さんが来校し、桐生織物のお話をさせていただいたり、実際に織機で絹製品を織らせていただいたりしました。お話の中で、桐生市は1300年の織物の歴史がある町であるということ、桐生の織物は徳川家康と深いつながりがあり、徳川家に大事にされながら、絹織物の町として栄えていたことなどが分かり、桐生という町のすばらしさを改めて認識しました。また、「桐生織りの七つの技法」が経済産業大臣が指定する伝統的工芸品（全国222品）として認定されているそうです。群馬県では、伊勢崎の紘と桐生織の二つしか認定されていないそうです。

3年生の児童は、初めて見る織機を使って緊張しながらも皆真剣に織ったり、「織物を作るのにどのくらいの時間がかかりますか」「工場には、どのくらいの織物がありますか」など、いろいろな質問をしたりして有意義な時間を過ごしました。